

テーマ 8

「感染症への不安に負けないために」（人権課題：HIV感染者・ハンセン病患者等）

1 学習のねらい・人権教育の視点

- (1) ハンセン病やエイズ、新型コロナウイルス感染症等の病気について、苦しみは病気によるものだけでなく、病気に伴う、感染者やその家族、関係者への偏見や差別により生じることを理解し、感染者やその家族に寄り添い、共に生きる社会を築いていこうという意欲や態度を身につける。

2 指導上の留意点

- (1) 国や社会が行った政策の背景など、偏見や差別が生まれる原因はどのようなところにあるのかを考えさせる。
- (2) また同じような過ちを起こさないために自分自身にできることを考えさせることが大切である。

3 展開例

学習活動	指導上の留意点、使用する資料
1 資料「引き裂かれた子どもたち ハンセン病家族の苦悩」を読む。	
	ハンセン病の苦しみはどのようなものだろうか。
2 柗木さんの体験談から、ハンセン病による患者やその家族の痛みや苦しみにについて考える。	<ul style="list-style-type: none">○ 患者の病気による苦しみや偏見や差別による苦しみ、他、「父は死んだ」という嘘をつき続けなければならない苦しみ、家族の絆がおびやかされる苦しみなど、人としての尊厳や心情の面でも傷つき苦しんでいることに気づかせる。○ 右ページの資料から、HIV 感染者や新型コロナウイルス感染症についても偏見や差別を受け苦しんでいる人がいることを理解させる。
	感染症から、どのように偏見や差別につながっていくのだろうか。
3 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」のスライドやQRコードから、感染症からどのように偏見・差別につながるか、まとめて発表する。	<ul style="list-style-type: none">○ 3つの”感染症”のつながりについて、生徒の発表を補足しながら説明し、理解させる。
	感染症による偏見や差別を生まないために必要なことは何だろうか。
4 感染症と偏見・差別がつかないようにするための具体的な行動や留意点について考える。	<ul style="list-style-type: none">○ 差別的言動に同調しないようにすること、インターネットやSNSで不確かな情報を安易に発信しないことなど「禁止」だけでなく、正しい知識をもつことや、感染者やその家族が安心できるような声かけや行動などについても考えさせる。○ 偏見や差別に対する啓発活動として、レッドリボンやシトラスリボンについて周知する。

4 参考資料

- (1) 人権アーカイブシリーズ「ハンセン病問題
～過去からの証言、未来への提言～」[QRコード右]
- (2) 人権アーカイブシリーズ「家族で考えるハンセン病」[QRコード左]



(3) 尼崎人権啓発活動地域ネットワーク協議会 啓発ポスター

「新型コロナウイルス感染症に関連する人権問題について考えてみよう」(下図は一部引用)



(4) [再掲]神戸新聞 平成 22(2010)年 5 月 16 日付け

誤解からの誹謗中傷など

悩まされた2次被害

新型インフル休校から1年

1年前の新型インフルエンザ感染拡大では、感染者の心のケアも課題になった。国内の「水際」以外で初の感染者が確認された県立神戸高校(神戸市灘区)で、生徒のサポートを担ってきた養護教諭の渡辺かおるさん(52)が8月、福井県である日本災害看護学会で体験を語る。誹謗中傷など2次被害が問題になったことなどを報告。「感染症は人権問題。普段から正しい知識や冷静な対応を呼び掛けることが欠かせない」と訴える。(中島肇子)

神戸高校養護教諭 渡辺さん
災害看護学会で体験報告へ

同校では昨年5月、生 告があったりした。生徒徒17人が感染。一部の生 がバスに乗ると、すぐに徒は防護服を着てカメラ 降車する乗客もいた。のフラッシュを浴びなが 「いつ、どこで感染しら病院に入り、一歩も外 たかかかず、誰もが感 染する可能性があった。学校が「感染源」とい 生徒は悪くないのに、不 安の裏返しで世間の目が 患者や家族、高校、地域 厳しくなった。犯人探し が2次被害に悩まされ のようになり、インタ ーネットの中傷やデマに された」と学校に電話が 生徒は傷ついた。 かかってくる。爆破手 渡辺さんは振り返る。

感染者の心のケアも課題に

県内の公立高校は一斉 滋賀県彦根市に招かれ、 休校その再開を前に全 市民や教育関係者、企業 教職員が研修会での心のケ 関係者を前に講演。養護 師の方法を学んだ。生徒 教諭の集まりでも体験を には電話相談や個別健康 語った。

相談 家庭訪問をした。夏 今年8月28、29日の日 休み中には感染した生徒 本災害看護学会では「新 を集め、語る場を設けた。 興感染症の集団発生に向 「同じような悩みを持 けた備えー保健医療、教 育現場からの提言」と題 った生徒同士が体験を振 育現場からの提言」と題 ったシンポジウムがハネ で、心の重荷がおろされ リストとして参加する。 たように思」と渡辺さ 渡辺さんは二度と不 安。その後、カウんセ 適切な対応がされないよ うに、神戸高校だからこ その情報発信をしたい」と話す。

渡辺さんは昨年9月、



新型インフルエンザで休校になった県立神戸 高校。誹謗(ひぼう) 中傷など2次被害が問 題になった=2009年5月、神戸市灘区

● B型肝炎について

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスが原因で肝臓の細胞が傷つけられ、その働きが損なわれる病気。集団予防接種での注射器の連続使用によって、40数万人が感染した。ウイルスは血液や体液を介して感染するが、日常生活の中では感染することはほとんどない。しかし、病気に対する知識・理解が不十分なことから、患者が退職を余儀なくされたり、結婚に反対されたりするなどの偏見や差別が起こっている。

- リーフレット「B型肝炎『いのちの教育』」
(全国B型肝炎訴訟原告団)



[ワークシート]

感染症への不安に負けないために

年 組 番 名前

1 柊木さんは、なぜ父の病気を隠さなければならなかったのだろうか。

2 ハンセン病による苦しみとはどのようなものだろうか。

3 感染症から、どのように偏見や差別につながっていくのだろうか。

4 感染症による偏見や差別を生まないために必要なことは何だろうか。

5 今日の感想や、気づいたこと、これから心がけたり行動したりしていこうと思うことを書こう。